

基本計画（素案）に係る審議会各部会における主な御意見・議論等（第5回終了時点）

分類	No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料16 反映箇所	部会	
大綱3【福祉・健康】						
健康・医療のまちづくり	341 施策	1	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの自主的な地域活動の活性化への支援が必要ではないのか。 施策に書かれているのは、市民の健康づくりを支援するための意識向上や検診サービスなど周辺の取組の充実策。活動そのものを後押しするような記述が読み取りにくいので、表現を検討できないか。 	市民が主体的に健康づくりに取り組むためには、地域での積極的な健康づくりの取組への支援が重要であると認識している。 施策341の本文に「地域での健康づくり活動への支援」を追記。	P18 施策341	第1
	341 指標	2	「健康寿命」と「生活習慣改善に取り組む市民の割合」は、市が直接的に向上させていけないものではない。それよりも、健康寿命の延伸のために何をするか、ということを経指標にする方が適切ではないか。	御意見を踏まえ、指標341「健康寿命」を削除し、健康寿命の延伸に向けた取組がわかるものとして、「特定保健指導の実施率」を指標341に設定。 健康寿命の延伸を実現することは重要であると認識しており、方向性は基本構想（素案）の施策の大綱、基本計画（素案）の政策3-4の目標に記述している。	P18 指標341	第1
	341 施策・ 指標	3	<ul style="list-style-type: none"> 施策341に母子保健に関する記述があるのに、指標が設定されていないことは疑問。子育て支援や保護者の支援について、指標を示すことが難しいのであれば、施策のところ、どのような取組をしていくのか挙げてもらった方が良いと思う。吹田版ネウボラの構築という注目されている取組もある。 施策の中身と指標と、どちらかに限定せず、母子の健康の維持増進という観点をさらに盛り込むという方向で考えられないか。 	妊娠・出産や子育ての切れ目ない支援体制をつくるためには、これまでの母子保健に関する取組の推進に加え、妊娠・出産・子育てにおける様々なニーズに応じた相談支援体制を充実することが重要であるとと考えており、施策341の本文に「妊産婦や乳幼児の健康管理などの支援の充実に取り組むとともに、」を追記。 母子保健・子育てに関する指標については、子育て支援との連携を図る観点から、指標413「生後4か月児までの乳児がいる家庭に対し保健師・民生委員などが訪問し面談を行った割合」が関連する指標であると考える。	P18 施策341	第1

分類		No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料16 反映箇所	部会
健康・医療政策のまちづくり	342 施策	4	「医療イノベーション」という言葉は、市民に意味が伝わりにくいとを感じる。施策の本文に説明を入れる、もしくは用語集に解説を入れることはできないか。	用語集に記載。 ※内容については調整中。	—	第1
	342 343 指標	5	施策の成果を測れるものかを考えた場合、「健都での健康づくりのためのプログラムの年間実施件数」と「地域医療推進に関する講演会等の累計参加者数」が指標としてふさわしいものか疑問。どちらも0から始まるのであれば、この指標に拘らずとも、今後こういった取組を進めていく、といった方向性でも良いのではないか。	今後の取組の方向性は施策に記述し、より具体的な取組については個別計画で示す。 健都における健康づくりの取組については、各事業主体や地域の医療関係者等とともに、今後の展開を検討している段階であり、現段階ではその他に指標を設定することは困難。 なお、指標342については、内容がよりわかりやすくなるよう指標名を修正。 地域医療体制の充実においては、診療所と病院や病院間の連携の促進、救急医療体制の確保に向けた取組なども重要であるが、その多くは市の権限だけで進められるものでないこと、加えて数値として示すことが困難。本市としては、今後の医療ニーズの変化に対応し、患者の状態像に応じて必要な医療が提供されるよう、医療機能の分化・連携の推進に向け、かかりつけ医の定着促進や在宅医療の推進に向けた市民啓発に力を入れていくため、指標343「地域医療推進に関する講演会等の累計参加者数」を設定。	P18 指標342	第1

分類	No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料16 反映箇所	部会	
大綱4 【子育て・学び】						
子育てしやす いまちづくり 政策1	411 施策	6	「親が孤立しない」という子育て支援の目的について、書き込みが必要では。	施策411の本文「妊娠・出産・子育て期にわたる保護者の負担や不安を軽減するため、育児教室や子育て相談、一時預かりなど、地域での子育て支援を切れ目なく行うとともに、子育てに関する情報を積極的に発信し、保護者が必要とする子育て支援サービスにつなげます。」に修正。	P20 施策411	第1
		7	妊娠・出産・子育て期における切れ目のない支援について、触れておく必要があるのでは。			
	411 指標	8	保護者が身近な施設で子育てに関する相談をできることが必要であることから、「子育て支援コンシェルジュの窓口の設置箇所」を指標にしてはどうか。	子育てコンシェルジュの窓口は今後、現状の2か所から3か所に増設を検討しているが、市民にとって身近な相談窓口として気軽に利用されていることを測る指標として「子育てコンシェルジュの利用者数」を設定している。	—	第1
	412 施策・ 指標	9	<ul style="list-style-type: none"> 待機児童数の指標のみではなく、質の高い教育・保育の内容に関する指標も必要ではないか。 保育の質の観点からは、保育士のキャリアアップ研修のように、保育士の質をあげることを目標とした方が、保護者としては安心では。 吹田市がどういう教育・保育を目指しているのかが見えてこない。 	指標412について、保育士のキャリアアップ研修については、平成30年度以降に制度が開始されるため、現時点においては指標として設定するのは困難。 施策412の本文に「子ども一人ひとりのすこやかな育ちを保障する」の文言を追加。	P20 施策412	第1
	412 指標	10	<ul style="list-style-type: none"> 保育所の待機児童数は、すぐに解消してほしい内容であり、10年かけて達成する目標ではないのでは。 待機児童が減少すると、子育て世帯の転入が予想されることから、待機児童数をゼロにするのは現実的に不可能では。 	待機児童アクションプランで平成31年4月には待機児童の解消を目標としているが、保育ニーズが今後も高まることを想定し、待機児童解消後も継続的に待機児童を発生させないことを目標としている。	—	第1
	413 施策	11	「発達に課題のある」という表現は適切か。	「発達に支援を必要とする子ども」に修正。	P20 施策413	第1

分類	No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料16 反映箇所	部会
子育てしやすいまちづくり 政策1	12	生後4か月までの乳児がいる家庭に訪問し面談を行った割合について、目標値が100%ではないのはなぜか。	民生委員に依頼している家庭訪問に加えて、保健センターの新生児訪問も行っているが、事前に時間等を指定しているといったことがないため、留守や表札のない家庭、オートロックなどの理由で面談が行えずにいる。目標値を100%とするのは、このような実態から困難であり、実現可能な数値を設定している。	—	第1
	13	指標に主語がないため、わかりにくい。	指標413「生後4か月までの乳児がいる家庭に対し保健師・民生委員などが訪問し面談を行った割合」に指標名を修正。	P20 施策413	第1
	14	子どもの貧困について、親に対する支援だけでなく、子どもに対する支援についても指標として示すべき。	子どもの貧困について、子どもに対する支援の重要性は認識しているが、貧困自体を減らすことも重要であることから、指標413においては、子どもの生活環境を改善することにつながる就労支援を指標として設定している。	—	第1
学校教育の充実したまちづくり 政策2	15	学習指導要領が全面改訂になり、これまでの教育に加えて、学びに向かう力やそれを活用できる人間性が必要と言われている。その点を示しておくべき。	新学習指導要領で追加された「学んだことを人生や社会に活かす」など、これからの時代に求められている内容を追加。	P21 現状と課題 P22 施策421	第1
	16	【中学1年生の不登校出現率】 ・不登校になった後の対応を示すべき。 ・不登校出現率についての指標は、不登校の児童や生徒が悪いかのように捉えられるのでは。	施策421本文において、不登校になった後の対応の体制を整えることについて示している。 指標421においては、いじめや不登校にならないためには児童・生徒が学校を楽しんでいることが重要であるため、「学校へ行くのが楽しいと感じる小中学生の割合」に変更。	P22 指標421	第1

分類		No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料16 反映箇所	部会
学校教育の充実したまちづくり 政策2	421 指標	17	【英検3級程度の英語力を有する中学3年生の割合】 ・英語に限定した指標ではなく、新しい学力観にふさわしい指標を設定すべき。 ・吹田市は学校に行く子どもが良く、英語ができる子どもを目指しますと読みとってしまい、指標として夢がなく殺風景。	新しい学力観においては、学習したことを人生や社会に役立てることのできる力を養うことを目指していることから、「授業で学習したことが将来社会に出た時に役に立つと思う小中学生の割合」に変更。	P22 指標421	第1
	422 指標	18	学校教育環境の整備に関する指標について、現状値の年度がH29年度となっている。	H29年度→H28年度の数値に修正。	P22 指標422	第1
青少年がすこやかに育つまちづくり 政策3	431 指標	19	地域や学校などと連携している内容を指標にしてはどうか。	指標431（青少年指導者講習会の年間受講者数） 青少年指導者講習会は、地域での見守りや指導を行うために必要とされる内容について講習を行っている。地域との連携を深めるためには、このような啓発が重要であることから、指標として設定。 指標431（青少年施設主催イベントの参加者数） 青少年に居場所を提供し、さまざまな体験活動を通じて他の青少年と交流することが、青少年の成長に役立つことから、より多くの青少年が集まるよう、活動内容の充実を図ることを目標としているため、指標として設定。	—	第1
	432 指標	20	【留守家庭児童育成室の利用者数】 利用者数ではなく受入数の方が施策の内容に合っているのでは。	受入児童数に変更。	P24 指標432	第1
	432 施策・ 指標	21	【太陽の広場などの年間参加者数】 ・吹田市の資源としてある子どもの居場所については、地域によって充実の度合いが異なる。参加者数だけではなく、これに対して、フレキシブルに対応していく姿勢が見える指標にはならないか。 ・「地域の実態に応じて」「実情に応じて」という文言を加えてはどうか。	地域によって異なる充実度に対応していくことについては、施策432本文において、「地域の実情に応じて」の文言を施策に追加し、指標432については、体験活動している子どもの数を市全体として設定。	P24 施策・指標 432	第1

分類		No.	主な御意見・議論等	考え方（案）	資料16 反映箇所	部会
生涯に わたり 学び つづける まち づくり 政策 4	441 施策	22	中央図書館の建替えや再整備について盛り込むことはできないか。	中央図書館の再整備については課題として認識しているが、現段階では総合計画に盛り込むことは困難。	—	第1
	442 施策	23	公民館などで行う講座の講師を公募するなど、広く人材活用を図ることが必要では。	公民館などで行われている講座の講師については、各地域の公民館の企画運営会議において地域の実情に応じた形で運営してもらっている。現在、講師の公募は行われていないが、市民ニーズに合わせた運営がすすめられるよう取り組む予定。	—	第1